



OTO

No.8
2026.1

一般社団法人 東京都作業療法士会 広報誌
編集：東京都作業療法士会 広報部
発行：会長 田中勇次郎

作業療法とファッションショー



OTOの由来

『音』といえば、音楽をイメージする方が多いと思います。しかし、鳥の鳴き声や電車の音など、私たちが生を受けた時から周囲にごくありふれて存在しているものです。

作業もまた『音』と似ています。作業というと、一般的には仕事をイメージする方が多いと思われます。しかし、作業もまた私たちが生まれた時から関りがあるものです。なかなか一般的に認知されにくい『作業療法』が、『音』のように一般の方にも広く認識していただき、広がっていくという願いを込めました。

はじめに

広報誌OTOでは毎回、東京都作業療法士会広報部がテーマの一つを選び、多くの方に作業療法とは何か、作業療法士（以下、OT: Occupational Therapist）にはどんな人がいるのかなどを紹介しています。今回は「作業療法とファッションショー」というテーマでお送りします。

2025年7月16日に東京都立大学にて行われた第21回東京都作業療法学会の公募企画で私たち広報部はファッションショーを企画しました。

医療専門職として認識されている私たちOTとファッションショーには一見、関連が無いように感じる方も多いと思います。しかし私たちOTが行うリハビリテーションは、単に動かしくなくなった身体を動かすやすくするためのお手伝いだけではありません。今後の生活や人生を可能な限り安全に健康に過ごしていけるよう、身体だけでなく心や環境面に対しても働きかけます。

健康増進には生活の質や満足度の向上も重要です。「人は作業をすることで元気になる」これは日本作業療法士協会が掲げるOTのスローガンです。この「作業」という言葉には日々のありとあらゆる活動が含まれます。さらにその作業に関わりによって他者から認められることで、自分の存在価値を感じる事ができます。

このようにOTは人と作業と環境の関係性に着目し、対象となる方自身の能力とその方が望む日常生活活動を全体的に捉えながら支援をしています。

さて、ファッションは衣服や装飾品、ヘアスタイル、メイクだけでなく、音楽やインテリアなどその時代によって変わりゆくものの中から個人が取り入れたものによって表現される、自己表現手段の一つと言えます。また、ファッションによって他者に見られているという意識も働きます。今回はその作業に着目し、単なる更衣動作だけでなく、何を着るかといった選択を含めたファッション全体への支援をOT自身がさらに意識できることを願いこのような企画にしました。

他にもファッションショーを開催するイベントが散見されています。二つ例を挙げると、国立リハビリテーションセンターの「国リハコレクション」があります。障害がある方、車いすの方などがモデルとなり自分が着たい装いでランウェイを歩くショーです。衣装は服飾専門学校の学生との協業で作成されたそうです。また、今年の国際福祉機器展のランウェイショーでは「人生を彩る福祉機器」をテーマに電動車いすなどの最先端のモビリティと、それに合わせた近未来を思わせるオリジナルの洋服で、日常に溶け込みながらも鮮やかにその人らしさや人生を彩っていく様子が総合的に紹介されていました。他にもこのような催しは行われており、多くの方のファッションへのニーズが潜在している表れでもあると考えられます。

今回は、多くの方のファッションへのニーズにも応える意識を持つOTも増えて欲しいという願いと、ここ東京でファッションを発信する企画にできればいいなという想いで進めました。

ショーは、2部構成になっており、第一幕はモデルの好きな洋服や手作り作品をスタイリングしたショーで、第二幕は多くのプロからも愛用されているバレエ衣裳を制作するアトリエ・ヨシノ様に提供して頂いた衣裳を纏ってのショーで構成されています。また、参加してくれたモデルの好きな音楽（本誌10ページで紹介しています。）をBGMとして流してステージングしてもらいました。

ショー開催に至るまで、モデルの皆様、ご家族、衣裳を提供して下さった皆様、物品をお貸し下さった皆様、学会長はじめ運営委員の皆様、東京都立大学の先生方、当日、お手伝いをして下さった皆様、ショーを見に来て下さった皆様、相談に乗って下さった方々、本当に多くの方にお力添えを頂きました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

それでは次のページから第一幕が始まります。ぜひ誌上ファッションショーをお楽しみください。

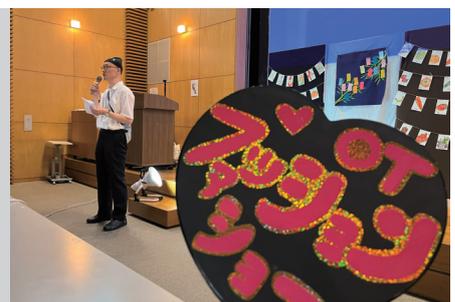
東京都作業療法士会 広報部 部長 野村 哲朗

作業療法士とは

作業療法士は体や精神に障害のある人がその心身機能を回復し、日常生活・社会生活に復帰できるように、食事、歯みがきなど日常生活の動作、家事、芸術活動、遊び、スポーツといった生活の中における作業や動作などを用いて訓練・指導・援助を行う医療技術者である。

OT (Occupational Therapist) とも呼ばれる。

厚生労働省HP 職業情報提供サイトjob tagより



第一幕 1

夢見る人魚姫に憧れて

トップバッターとして登場したのは伊藤友希菜さんです。

友希菜さんは可愛いお洋服が大好きな女の子で、本屋さんに行くことが嬉しい時間と教えてくれました。

トップバッターながら堂々と笑顔で登場してくれました。

友希菜さんが履いているスカートは作業の一環としてファッションショーに向けて作ってくれた作品です。

友希菜さんは、もの作りが好きな家族の中で過ごす中で工作が好きになったそうです。友希菜さん一家はみんなの作品を集め展示会も開催されているそうです！

今回、着用したスカートは訪問作業療法のプログラムでファッションショーに向けて作ってくれた作品です。

友希菜ちゃんの大好きな人魚姫をテーマに作りました。スカートのデコレーションは友希菜さん自身が好きなパーツを選んで貼り付けてくれました。

また、当日の展示コーナーには友希菜さんが制作してくれた工作の作品を展示していました（8ページ参照）。こちらも是非ご覧ください。

お母さんが着用しているズボンは物作りクラブ「チャームシルク」の皆様（9ページ参照）の作品です。ズボンとバックは使われなくなった着物や帯をリメイクして制作されたものです。お母さんのトップスのさわやかな柄とバックの花柄がよく合っています。ズボンも生地風の風合いが軽やかで動きやすいそうです！一見、リメイク作品とは気づけないクオリティでした。



お母さんと一緒にステージへ



お母さんとお揃いのトップスは海を感じる色合いで、人魚姫が大好きな友希菜さんにぴったりでした！



第一幕

2

お気に入りの大人のカーキ



2番バッターは大坪芽衣さんです。

芽衣さんはお洋服屋さんに行くことが好きな女の子です。ぬいぐるみと一緒に寝ることが大切な時間と教えてくれました。

当日は自分で気に入りのお洋服を選んでくれました。お洋服のポイントを探ねてみると、「ポイントは襟のここが丸いところ」と答えてくれた通り、ラウンドネックとフリフリのズボンが動きに合わせて揺れてとても似合っていました。また、ステージ上では可愛いポーズ（上の写真）もとってくれて会場を沸かせていました。





着心地と動きやすさの両立

続いて登場してくれたのは西村繭さんとお母さんの西村恵さんです。繭さんのお気に入りの洋服は好きなゲームの絵がプリントされたTシャツで、ドッジボールやサッカーで勝った時が嬉しいという活発な男の子です。チョコミントとキャベツが好きな食べ物だと教えてくれました。

お洋服はオンラインで感覚過敏（8ページ参照）の方に向けた商品を扱っているひよこ屋さんというセレクトショップの服です。今回は繭さんにモデルになってもらいジップアップパーカーとポロシャツ、ショートパンツのコーディネートで登場してもらいました。これらのアイテムはコットンを使用し、縫い目がフラットな構造になっており肌に触れても痒くなりにくい工夫がされています。

感覚過敏（9ページ参照）の方が着用しても嫌な感じがしないことをコンセプトに作られています。

当日は衣装提供して下さった、ひよこ屋さんが取り扱っている素材が竹の線維から作られた靴下を展示していました。この靴下はふっくらした柔らかい風合いとなっており感覚過敏のお子様でも履きやすく、とても好評とのことです。

お母さんが着用されているスカートは1番バッテリーのお母さんと同じチャームシルクさん（9ページ参照）の作品です。上品なデイジー柄がとてもお似合いです。

最後、繭さんは恥ずかしそうでしたが、お母さんとかっこいい決めポーズ（写真右真ん中）で、会場を沸かせてくれました。

第一幕 4



おばあちゃんの手作りブラウス

4番目に登場してくれたのは平野寛奈さんです。寛奈さんは普段、スポーティーな装いが好きな女の子です。洋服を選ぶ時間が楽しいそうです。嬉しかった時はテストで100点満点の時です。

なんと！寛奈さんの衣装のトップスはこの日の為に、おばあさんが手作りしてくださったそうです。生地はお気に入りの紺色のボトムスに合うものを寛奈さんが選びました。

お洋服の好きなポイントは、「後ろのリボンが気に入ってる」と言って後ろを振り返り、会場に後ろのリボンを見せてくれました。

トップスの後ろの襟に白い大きなリボンが付いています。アクセントになり、寛奈さんの可愛い雰囲気にとっても似合っています。

最後にポーズをお願いすると、両手でピースをしてくれました！会場のお客さんからの温かい拍手で会場がアットホームな雰囲気に包まれました。



第一幕 5

続いて登場してくれたのは伊藤周平さん（Shu）と姉の真菜（Mana）さん、そしてお母さん（Mayo）。周平さんの好きなお洋服は黒いTシャツ。好きなものは動物で特に猫が好きです。

幼稚園で猫を飼っていて、触るのが好きだったそうです。嬉しい時は天気が晴れた時です。

周平さん、真菜さん、お母さんが着ているのは周平さんのアート作品を元にご家族で制作されたお洋服です。Atelier Kao+（アトリエ カオト）のオンラインショップで販売もしています。



Atelier Kao+ Online shop

<https://atelier-kaoto.designstore.jp/>

Atelier Kao+(アトリエ カオト) とは

好きなものをとことん描き続けるShuの作品に感動した母が、この感動を自分一人だけが味わうのではなく、世の中の暮らしを彩るアイテムになったら良いなという思いからスタートしました。

スマホケースから始まり、Tシャツ、ハンカチと、身近なアイテムから制作していきました。それを見ていたManaがメンバーとして加わり、デザインを進化させてくれています。

本日Shuが着ているアルファベットの切り絵Tシャツは、Shuがその辺にあったチラシ（区報）をチョキチョキと切り絵しており、よく見るとAからZまで切り絵していたところから始まりました。黒い画用紙に貼って見たらカッコ良さそうだと貼ってみて、そこからTシャツへと発展しました。

本日Mayoが着ている水彩アルファベットTシャツは、3歳の頃からアルファベットを描き続けているShuの水彩画作品から作りました。フリーハンドで描いているのに不思議と整っている書体と、カラフルで澄んだ色作りがShuならではの作品となっています。

本日Manaが付けているネクタイは、その水彩アルファベットのデザインをManaが進化させて作りました。一つ一つのアルファベットに表情を付け、ランダムに細かく配置することでひとつのテキストデザインへと進化しました。ネクタイの他に、ハンカチ、マグカップ、パスケース、クリアファイルなど、多様な作品になっております。（お母様より）



当日は展示コーナーで紹介されていました。

展 示 作 品

ショーにご協力いただいた方や団体の作品を展示させて頂きました

感覚過敏の方におすすめ

アイルランドのソックスブランド。繊細な感覚の子どもたちが毎日快適に過ごすには竹繊維がベストだという気づきから「スーパースーパー」ソフトなバンブー素材を使用したシームレスソックスが誕生！軽くて柔らかい風合いでした。



靴下3足
よりどり



13-28cm



握る・つかむをサポートする、
グリップ自助具イージーホールド。
柔軟で安全なシリコン製&8サイズ展開
で、子どもから大人まで多用途にご使用
いただけます。

介護用子ども服のセレクトショップ



友希菜さんの作品

工作が得意な友希菜さんの作品です。
本誌3ページ、10ページでも大活躍してくれました。



伊藤友希菜 様

友希菜ちゃん
手作り
作品です！

感覚過敏とは

感覚過敏は受ける刺激に対して不釣り合いな反応を示す感覚調整障害の一つです。

聴覚、視覚、嗅覚、触覚、前庭感覚にみられることが多いです。

例えば触覚が過敏になるとスキニップを嫌がったり、歯磨きが出来なかったり、洋服の縫い目やタグが皮膚に当たると苦痛を伴い決まった肌着しか着れないなど、様々な困り事が聞かれています。

日常生活で使用できるものが限られたり、感覚を調整するグッズなどが手放せないという声が聞かれています。

そうなると集団への適応が難しくなる場合もあり、いろいろな楽しい機会や成長を妨げてしまいます。

ひよこ屋さんの取り扱う竹素材の靴下などは、軽くて柔らかく、触覚が過敏な方も履けると好評だそうです。



訪問看護ご利用者様作品

こちらの帽子とマフラーなどは、訪問看護をご利用の90代の方が、趣味の編み物で制作されたものです。

毛糸を1玉お持ちすると、あっという間に素敵な作品が出来上がります。

「誰かのために作るのが好きなのよ」と話しながら、心を込めて作っていただきました。

アクセントカラーの選び方やさりげない飾りに、長年培われたセンスが光ります。

ものづくりクラブ チャームシルク様

チャームシルクは、元信州大学作業療法学科教授の佐藤陽子先生が中心となり、作業を通して、メンバー間の関係性を豊かにしながら縫製技術を高め、作品を販売し収益を寄付されている活動グループです。着物の帯の生地を使ったバックや小物などを制作することから始まったそうです。現在は70代から80代の方が10名で構成され、今年で活動11年目を迎えられました。2025年11月8日には、10年以上のボランティア活動を讃えられ、ねんりんピックの式典で知事表彰を授与されました！チャームシルクさんの素敵な作品は各地区の公民館まつりやねんりんピック会場、委託されている2店舗で販売されているそうです。



第二幕

Tokyo Ot Collection 2025

私の
好きな曲

寛奈さん

- ① たた声ひとつ
- ② Mela!

伊藤周平さん
(第一幕のみ)

♪ NEW YEAR
NEW ME

友希菜さん

- ① Under the sea
- ② Part of your world

爾さん

- ① 「1・2・3」
(ポケモン)
- ② ライラック

芽衣さん

♪ アイサレタイ



西村 爾さん

平野寛奈さん

大坪芽衣さん

友希菜さんの弟
恵一郎さん

伊藤友希菜さん

第2幕はバレエ衣裳に身を纏い華麗に登場！

どの衣裳も可愛く、とてもよく似合っていました！

今回、ショーの為に選んでもらった好きな曲をBGMで流しながらステージングしてもらいました。

「初めてモデルになりました。」というコメントももらい、企画して良かったと思いました！

第二幕の衣裳は、この日の為にアトリエヨシノ様からの寄贈によるものです。参加してくれるお子さんのサイズに合わせて素敵な衣裳を選んでいただきました。友希菜さんは貴族のようなドレスがとても似合っていました。弟の恵一郎さんとお母さんとステージ上へ。恵一郎さんはグリーンの道化師（ピエロ）の衣裳で元気よく登場してポーズも決まっていました！赤いチロリアンテープが牧歌的で可愛いドレスはキュートな芽衣さんにぴったりでした。繭さんの衣裳は星柄のデニム風のつなぎでした。かっこよく着こなしてくれました！

そして、寛奈さんは腰から広がったチュチュが可愛いバレリーナで登場。みんな普段着とは違う一点物の衣裳を身に纏い堂々とステージの上を歩いてくれました。



ショーのフィナーレの集合写真

株式会社アトリエヨシノ様ご紹介

クラシックバレエを中心とした、ステージ衣裳のレンタル会社として展開されています。レンタル品でありながらも芸術性の高い衣裳を提供することを企業理念とされ、全国のパレエ教室・ダンス教室からプロのパレエ団まで、全国のお客様へ貸し出しを行っておられます。衣裳は全て自社デザイナーが手掛けるオリジナルで、1点物から、発表会・小品用の楽しい衣裳、自社オリジナル全幕用衣裳まで揃えておられ、お客様の舞台にぴったりの1着を見つけてくださっています。



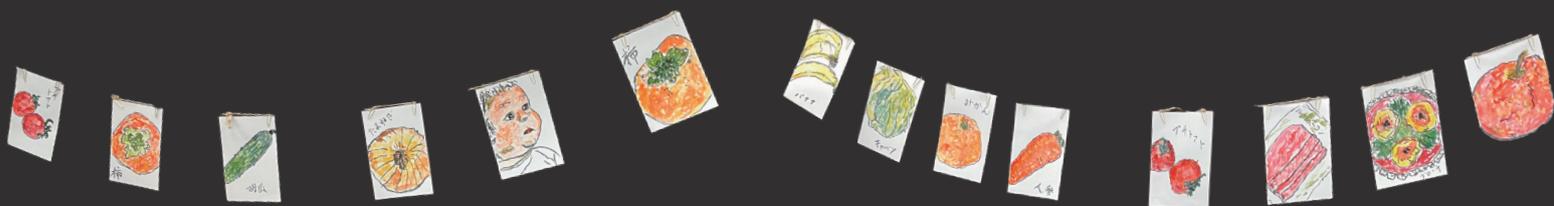
引用：アトリエヨシノ様ホームページ
 今回は本企画の趣旨への深いご理解を頂きご協力してくださりました。アトリエヨシノ様は、今回のような催しや福祉イベントで、どなたでもバレエの衣裳に触れて欲しいと、衣裳の寄贈を通してバレエの普及活動にも力を注がれています。

バレエへの情熱を一針一針丁寧に縫われた衣裳から感じる事が出来ました。



アトリエヨシノ様 ホームページ

BACK STAGE



心温まる「やや」様の絵手紙



ステージのバックには訪問看護のご利用者様が描かれた絵手紙を飾りました。ペンネーム「やや」様は、症状により手の使いづらさがあるなかで、心温まる素敵な作品を生み出しておられます。「やや」様の作品は昨年の第20回東京都作業療法学会のホームページにも掲載されていますので、是非、ご覧ください！

中央の七夕の笹をモチーフにした布アートは我が広報部理事水口寛子の作品です！応援うちわ（2ページ参照）も作成し、盛り上げました！

「やや」様の作品が掲載されている第20回東京都作業療法学会ホームページ（学会は終了しています。）



ステージ裏では

ショー会場は1階の大視聴覚室で、第1幕と第2幕の間で3階の教室にてモデルに衣装をチェンジしてもらう必要があります、エレベーターを利用した移動、着替えを短時間で行うという大きなミッションもありました。お母さんたちや協力スタッフのおかげで衣装交換や移動が事故無く行えました。事前にリハーサルが行えず、会場の外の廊下でポスター発表をされている中をすり抜けて移動する事態になってしまったり企画・運営の反省点もありましたが、次の機会への良い学びになりました。

モデル、スタッフみんなで顔にラインストーンシールでメイクアップしていました。自分の好きな色を選んで思い思いに飾り付けが出来て良かったです。

下の写真は参加してくれたモデルの皆さんに参加賞としての表彰状（左）、参加者の方への「ファッションショーのしおり」（中）、展示の準備（右2枚）です。

皆さんにお披露目する当日に至るまでのモデル・スタッフの準備もたくさんの「作業」として捉えられ、活動、参加に焦点を当てた作業療法のエッセンスがたくさん詰まっていました！ファッションショーは、舞台の裏側も楽しめるのも目標の一つでした！



東京都作業療法士会広報部

STAFF 野村哲朗 橋本奈実 金澤均 山崎仁智 宿久侑裕 加藤真美 小林亜結美 水口寛子

Special thanks 中尾亮介 中山義己 浦田祐美子 土居大祐 野村仁美 倫花 敬称略

messages

ショーをご覧になられた方がコメントを寄せてくださいました
ありがとうございます！

孫のファッション、初めて拝見させて頂きました。
本人も家族も大変楽しみにしている母や姉連と数日前から色々
ポーズを考えていました。嬉しいのさようぞ、ショーが終了すると
ニコニコして「楽しかった」「ポーズ決めたね」と皆で喜び合っ
ています。又、作品も展示させて頂き、皆様に見て頂き
ありがとうございます。
このような企画、催しを考へ、実行して下さった先生方、
スタッフの皆様、ありがとうございます。
心く感謝致します。

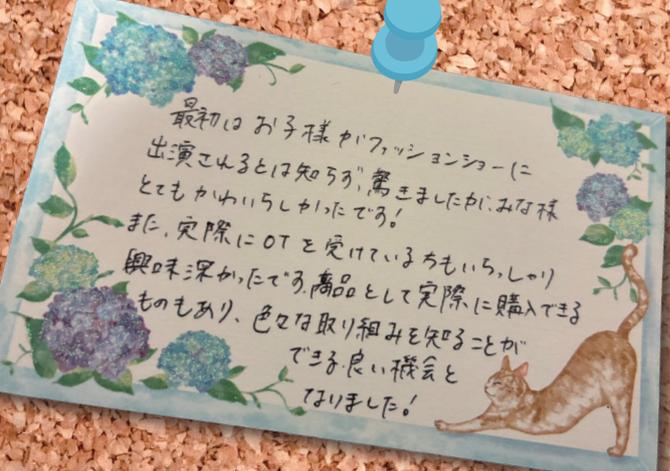


学会のプログラムの内容を見た時から
魅力的だなと感じ、「これは行かねば！」
と思い、行かせていただきました。
それぞれの洋服に込められた思いや、
その洋服を来てくださった家族や兄弟等の
モデルの皆様が本当に輝いておりま
した。素敵なファッションショーを見る
ことができて良かったです。本当に、
ありがとうございます！

ちびっ子、ティーンズ、大人の方のファッション
ショーとても楽しませて頂きました。お姉様
の「お姉らしさ」や「家族らしさ」が伝わって
きてほっこり😊皆様の生き生きとした
表情に元気をもらいました。♪客席に
出演者の皆さんの作品があったのも
とても良かったです～♪

Thank you!

最初はみ子様からファッションショーに
出演されるとは知らず、驚きました。み子様
とてもかわいらしかったです。
私、実際にはOTを受けているつもり、しかし
興味深かった。商品として実際に購入でき
るのもあり、色々な取り組みを知ることが
でき、良い機会と
なりました！



想いをつないだランウェイ

第21回東京都作業療学会の広報部企画として開催されたファッションショー。この企画は、訪問リハビリで関わる利用者さんをお誘いしたことをきっかけに、そのご友人、ご家族、同僚へと輪が広がり、障害の有無や年齢に関わらず、多様なモデルがランウェイを彩る舞台となりました。

ファッションショー当日まで本当に多くの方々のご協力を得られたことがとても大きな力になりました。さまざまな方が、いろんな思いを込めて作ったお洋服や、いろんな気持ちを持って選択した装いが、それぞれの「ものがたり」として、一つの舞台に集まりました。

トップバッターの伊藤友希菜ちゃんが着てくれたスカートは、作業療法の一環として、大好きな人魚姫をテーマと一緒に作ったものです。平野寛奈ちゃんは、おばあさまがこの日の為に愛情込めて作ってくれた手作りの服で登場してくれました。また、お母さま方が身に着けてくださった帽子やマフラーは、訪問看護を利用されている90代の利用者さまが編んでくださった作品です。さらに、『ものづくりクラブチャームシルク』（9ページ参照）さんのスカートも合わせてコーディネートが完成し、まるでリレーのバトンが繋がるように手仕事の結果が折り重なりステージに彩りを添えてくださいました。



伊藤周平くんのご家族による『Atelier Kao+』（7ページ参照）。今度は“創作のリレー”を感じさせました。周平くんが生み出すアートを、お姉さんがデザインに進化させ、お母さんが形にし、お父さんが宣伝をする。家族の得意が合わさって生まれたTシャツやネクタイは、温かみのある作品で、まさに創作のリレーの結晶です。

ステージを彩ったのは、手作りの作品だけではなくありません。大坪芽衣ちゃんは、ご自身のお気に入りの服をセレクト。その素敵な着こなしは、彼女自身の「好き」という気持ちを表現していました。西村蘭くんには、感覚過敏の方向けのお洋服を取り扱う『コドモフクひよこ屋』様（8ページ参照）の衣装の着用をお願いしました。必要な方に情報が届いて欲しいです。

そして2巡目のランウェイでは、株式会社アトリエヨシノ様が社会貢献の一環として寄贈してくださったバレエ衣裳を着用。精巧で美しい衣装は、モデル一人ひとりを一層輝かせ、会場を華やかな感動で満たしてくれました。

こうしたさまざまな方の協力が得られた背景には、ファッションショーまで人と人をつないでくださった、善意と協賛の輪が紡ぐ“関係のリレー”がありました。

このように、誰かのために作られたもの、自分らしさを表現するために選んだもの、そして活動を広く伝えるために託されたもの。一つひとつの装いに物語があり、それを受け取ったモデルの方々が、それぞれの「らしさ」をまとめてランウェイを歩く。このファッションショー自体が、さまざまな人の想いと物語のバトンが繋がれて実現した、壮大なりレーだったのです。

ショーの後、モデルの方にインタビューを行わせていただく機会がありました。そこで、この経験が単なる思い出

に留まらない、大きな意味を持つものであったことが分かりました。

Atelier Kao+の伊藤真代さまは、「家族にとって創作は、リハビリの時間と自然につながる活動でもあったため、作業療法×ファッションショーは『自然な流れ』に感じられた」と語ります。ショーを通じて、作品を手取る来場者の姿を目の当たりにし、「ネット販売では見えない、リアルな反応」に触れたこと、そして「創作物を通じて社会とつながる、反応をもらうこと」が活動を続ける大きな力になると実感したと言います。作業療法が「機会を提供し、伴走する」存在であったことも、活動を後押しする一助となったようです。

友希菜ちゃんのお母さまであり、作業療法士でもある真理子さまは「車椅子などで身体の不安がある子どもにとって『堂々とランウェイを歩く』機会には特に価値がある」と語ります。「普段スポットライトを浴びにくい子ほど、そうした場を意図的に作る事が重要」であり、ランウェイを歩くという成功体験が、自己効力感を育む上でいかに治療的価値を持つかを、改めて実感されていました。

ステージで素敵なパフォーマンスを見せてくれた恵一郎くん。「自分にもインタビューして！」と名乗り出てくださいました。ステージでは、隠し持っていた帽子をひょいっと取り出してポーズを取ることを事前に決めていたようで、成功した際には会場からの「おー！」という歓声や拍手が嬉しかったと語ります。その満足げな表情は、自己表現の欲求が満たされることの喜びと大切さを、私たちに教えてくれました。

当日、私は音響係として、ステージ袖からランウェイを見守っていました。そこは、モデルが舞台に出てくる瞬間の表情が、一番最初に見える場所です。

緊張と期待が入り混じる空気の中、トップバッターの友希菜ちゃんが、普段の移動は車椅子の彼女が、お母さまに支えられながらしっかりした足取りで、笑顔で舞台に入ってきた瞬間、「ファッションショーを開催できて良かった」と心から思いました。

「着たい服を着る」「好きなものを創る」「大勢の前で自分を表現する」

これらは全て、人々の生活を豊かに彩る「意味のある作業」です。今回のファッションショーは、参加者一人ひとりが主役となり、自己表現を通じて自信を得て、社会とのつながりを再確認する場となりました。それはまさに、作業療法が目指す「その人らしい生活」の実現を、ランウェイという華やかな形で体現したものでした。この素晴らしい経験を糧に、私たちはこれからも、一人ひとりの「したい」に寄り添い、その人らしい人生の舞台を創り出すお手伝いを続けていきます。

東京都作業療法士会広報部 橋本 奈実



装うを支援するサイト 「やさしいファッション」の紹介

何らかの疾病や遺伝などが原因により心身に障害がある方の困り事で「着たい服が着られない。」という声が聞かれています。

例えば、片麻痺があっても着やすい服の実例は無いのか、車いすでも着たい服がある、好みの型にお直ししたい時、どうやって探せばよいか等、そのように迷った方が情報にリーチしやすいファッション検索サイトがあることをご存知でしょうか。

「やさしいファッション」は着たい服が手に入りにくい状況を改善するための情報を提供し参考となる情報を共有するためのプラットフォームになるように設計されています。

検索フォームから「衣服・靴等の工夫・実例」、「相談できる、購入できる所」を選択できます。

ショーにご協力いただいた、ひよこ屋様もこちらに登録されています。また、特集記事なども掲載されており様々な情報が手に入り、着たいけど着れない洋服の解決策や、相談に結びつきやすくなりそうです。

OTは医療職として医学的な立場から身心機能の回復を図り、日常生活動作の再獲得や本人が出来ないと諦めてしまった事へのチャレンジを支援します。それは、本当の意味での健康は心も身体も健やかになること、幸福に結びつくことでもたらされるものだからです。

対象者のニーズにファッションに関連するものも多いです。片手でマニキュアを付ける、髪を結う、上がりにくい肩でネクタイを締めるなど様々あります。洋服も、その延長で考えられます。

着たい服で外に出たい。冠婚葬祭で礼服が必要。など、個別性の高いニーズに応じていく事もOTの役割だと考えますが、そのために洋服を作ったり、リフォーム・リメイクすることは容易い事ではありません。

「やさしいファッション」はOTの支援を助けてくれるサイトとしても役立つと考えられます。対象者に紹介したり、一緒に考えていく事で支援に繋がると考えます。

装いから元気になる人も大勢いることが今回のファッションショーで気付かされました。多くの方に元気になってもらいたいです。

広報部部長 野村 哲朗

やさしいファッション
YASASHII FASHION

ホーム 本サイトについて お知らせ 検索フォーム 記事 お問い合わせ

ファッションのインクルーシブデザインを
目指した情報共有サイト



<https://yasashii-fashion.jp/>

装う自由と参加の権利 ——OTが示すインクルージョンのかたち

この企画に期待したことは主に3つでした。障害者であることによってオシャレを諦める必要がないことと参加の機会が制限される必要がないことを改めて知ってもらうこと、そしてOTという職業は「場の設定」によって、その二つを叶えるためにお手伝いができる職業であることをOT自身が再確認し、かつ一般の方にも知ってもらうこと、でした。

OTは「参加」というものをとても大事にします。人と人とのつながり、社会の構成員の一部であるという実感、それは社会的生き物である人間にとって重要なことだと考えています。「装うこと」は参加を促進する面と抑制する面があります。

私が小中学生だった約30年ほど前は、ランドセルの色が男の子は黒、女の子は赤と決まっている学校が多かったです。また中学生になって制服を着ることになると、それまでスカートを履くことが嫌いだと言っていた（女の）子も、否応なしにスカートを履かざるを得ませんでした。生まれ持った生物学的特徴によって役割や身につけるものの色まで固定されていたのです。スカートを履きたくないから学校に行きたくない、という人もいたと思います。

反対に、新しいお気に入りの服を着た時、美容院に行った次の日などはいつもよりも学校や職場に行くのがワクワクする、好きな芸能人の真似をしたり、アニメのキャラクターのコスプレをすると気分まで変わる、という経験は多くの方にあると思います。そういった装うことの効果をファッションショーという煌びやかな舞台の上を歩くという形で実現したいと考えたのがこの「OTとファッションショー」でした。

ショーへの参加という何もしないモデルさんだけではありません。衣装や作品を作る人、観客、付き添う家族や友人、運営スタッフ、様々な人が関わって舞台が成功します。「場の設定」によって多くの方の参加を促進することができるのです。

このようなショーは晴れの日であり、お祭り事ですが、単なるイベントで終わっては意味がありません。誌面をご覧になったあなたも含め、それぞれの「参加者」がこれによって次なる活動や参加につながっていければ幸いです。

広報部理事 水口 寛子



総括

国立障害者リハビリテーションセンター 研究所顧問 小野 栄一

ショーと展示、作品を拝見し、OTの方々や関わった方々の熱く温かい気持ちを感じました。全体的にアットホームな感じで、お子さん方の明るい笑顔や観客との一体感が素敵でした。

多くの方々の思いがこもった手作り感のある会場の飾り付けで、スカートのデコレーションをモデルのお子さん自身がやっていたり、モデルのお子さん本人が描いた絵がTシャツプリントされていたり、本人が作成の段階から楽しんでいたようで、気持ちよく、着用した様子は、本当に楽しそうでした。また、ご本人が洋服を選択しているモデルのお子さんも複数おられました。

体・生活のことを理解して、適切なモノを用意しても、ご本人の気持ちが大事で、着たいと思わなければ、本当の笑顔は出てこないと思います。

今後は、できれば、観客側にもお子さんがたくさんいて、ショーを見て、同じようなモノを着たいとか、その格好をしたいと言ったら、そのモノが手に入るような仕組みがあると良いと思います。

東京ガールズコレクションでは、ステージで着ている洋服を見て、購入したいと思えば、その場で、

スマホから購入できると聞いたことがあります。ファッションショーを楽しむだけでなく、着たいと思ったら、その洋服が手に入りやすくなる体制やアドバイス、相談を受けられる窓口ができれば素晴らしいと思います。その窓口では、障害のこと、障害がある人の生活がわかっている医療職がいて、洋服のものづくり手側との架け橋になる人(またはシステム)がいると有り難いと思います。

OT士会が、障害当事者ともものづくりをつないで、継続的な情報収集・発信のハブのひとつになってもらえたらと思います。洋服だけでなく、生活する上で、靴下や靴や自助具などいろいろ必要です。いろんなつながりがあり、人もどこかでつながっていると思います。

ニーズを知って理解できる人が情報発信しないと、作り手側の作製につながりません。当事者一人ではなかなかものづくり側につながらないことが多々あるので、是非、ものづくりに関心のあるOTの方々に、ものづくりを通じて、このような当事者の幸せにつながる活動(啓発活動含め)に参加されることを期待します。

仲間募集!

東京都作業療法士会では活動に興味のある方の参加を募集しています。各領域を深めたい方は委員会活動がおすすめです。ブロック活動は東京を6ブロックに分け、その地域ごとにOTが集まり様々な催しを企画しています。また、部の活動も協力しあって都の作業療法を盛り上げています。いつでもお待ちしておりますので、お気軽にお声がけください!

広報部からのお知らせ

広報部では今回のファッションショーに寄贈して頂いたアトリエヨシノ様の衣裳の貸し出しを始めました。活用方法はイベントで、衣裳を纏い記念写真を撮るなど、バレイ衣裳の素敵な意匠に触れて頂ける機会の創出にご活用頂けると幸いです。
お問い合わせ koho-ml@tokyo-ot.com

※ OTO に掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501

TEL: 03-6380-4681 FAX: 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い: 現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。

